

◆開催日時 平成27年2月12日(木) 午後7:30～9:10

◆開催場所 東近江市役所 新館3階 318会議室

◆出席者

市民協働推進委員 深尾昌峰、福田純子、高頭勇次、楠神渉、佐子友彦、築山清美、荷宮将義、北井香、森田徳治、井尻久嗣、大橋正徳、板倉元  
(欠席:太田裕子、小倉昌和、飛田重金)

事務局 まちづくり協働課 山口、浅田

◆傍聴人数 1人

◆議題

協働施策の検証及び推進について

◆会議録

開会

【事務局より開会のあいさつ】

(委員長)

こんばんは。受験シーズンで、私も本日は試験監督をしてきたのですが、受験生の真剣に頑張っている姿、まちづくりもそうですが若い人が一生懸命頑張っている姿というのは素敵なことだと改めて感じているところです。若い世代もそうですが、色々な世代がまちづくりに関わることができるのは非常に尊いことだと思います。この委員会までの間、この委員会やラウンドテーブルの動きについて国や色々なところで話をしてきましたが、「そんなまちがあるはずない」「大金がうごいているのではないか」等、信じてもらえないのですが色々な講演会でも東近江市の話をさせてもらっています。全国でトップクラスの議論をしているのではないかと思います。今年度は押し迫ってきましたが、深まった議論も行いましたし、動きも作れてきたと思っています。誇れる委員会だと思いますし、皆さんにも非常に頑張って頂いたと思っています。本日は振り返りもしながら、来年以降何をしなければならないかやこういった議論が必要だよねということについて、今日議論をするというよりは論点を出したりしたいと思います。中間的な総括と来年度以降の見通しをつけていきたいと考えています。それでは資料の説明を事務局からお願いします。

(事務局) ※資料に基づき説明

【資料】協働施策の検証及び推進について

委員会設置時に掲げた検討事項

○協働ラウンドテーブルのしくみ→委員会で検討済み

※協働ラウンドテーブル運営委員会で企画・運営

○協働の優良事例を表彰する「協働アワード」→委員会で検討済み

※平成27年度より「共に考え、共に創る」わがまち協働大賞

○市民活動推進交流会「(仮称)市民活動大縁日」→市民等で構成された実行委員会で検討済

※平成26年12月に「いきいきウォッチ わくわくこらぼ村」

○市民と行政の協働研修の実施→未検討だが実例あり

○協働事例集、協働マニュアルの作成→未検討

東近江市で実施している協働施策（まちづくり協働課が関わる主なもの）

まちづくり協議会関係

○まちづくり協議会交付金

○地域活動支援補助金（まちづくり協議会支援）

※平成26年度 14団体から36事業の提案

○東近江市まちづくり協議会合同事業実行委員会 ※平成26年度は婚活がテーマ

○蒲生エコまちプロジェクト ※住民参加による低炭素都市形成計画策定モデル事業

自治会関係

○自治会加入の促進

○自治会対象の各種補助金等

○自治会連合会運営補助金

※まちづくり総合交付金（新設予定） 平成27年度より

まちづくり協議会交付金、地域活動支援補助金（まち協支援）、

地区自治会連合会運営補助金、地域活性化事業補助金を統合

市民活動団体関係

○地域活動支援補助金（市民公益活動支援）

※平成26年度 8団体から8事業の提案

○コミュニティビジネススタートアップ支援事業委託

※平成26年度 4団体から4事業の提案

○市民活動支援業務（中間支援活動）委託

※NPO法人まちづくりネット東近江に事業委託

庁内関係

○職員研修（協働研修） ※職員課とまちづくり協働課で企画

○庁内プロジェクト会議 ※就労支援プロジェクト、里山活用プロジェクト

（委員長）

非常に多岐にわたる話でして、本日、何を決めないといけないかという具体的なタスクはありません。ですので、今の話を含めてフリーで議論しながら、来年度以降何をしていかないといけないのかについて、皆さんと自由に話ができたらと思います。今聞いた話の中で質問等があればお願いします。

（委員）

感想になりますが、昨年7月から議論してきましたが、実は色んなことが進んでいるんだなと感じました。勉強会や人間力の講座をされていたり、既に凄く色々されていると感じました。

（委員）

今話が合ったように、自分の中では色々進んでいるということは理解していたのですが、自分の地区に帰った時に、このように進んでいるということが伝えきれていない不甲斐なさを感じています。目の前の課題に追われて、まちづくり協議会の皆でこういう動きがあるんだよとかの話をする時間がさけていない。皆に理解してもらおう方法を考えていきたいと思っています。

(委員長)

非常に大事なことですよね。やっていることをどう伝えていって、それがどんどん市民的なすそ野を広げていくかということですよ。私も先程話をしましたが傍から見てると東近江って本当にすごいまちだなと思うのですが、ただその価値が市民にどう伝わっているのか。大事な課題かもしれないですね。

(委員)

うちのまちづくり協議会は、12月の「わくわくこらぼ村」の人気投票で1番になって盛り上がっていたのですが、参加したメンバーはなぜ自分達がこのイベントにいてとか、このイベントの意味というのをわかっていなかったかもしれない。このイベントの意味や東近江市での動き、東近江市は進んでいるんだということを広げていかないといけないと感じた。そういう課題はあると思う。

(委員長)

全体の中で自分達の活動の意義や位置づけが少し見えるように可視化する必要があるかもしれませんね。協働ラウンドテーブルのときもそうでしたが、まち全体の中でどういう課題があって、どういう動きがあるというのはできるだけ可視化していこうという議論があったのにつながってくる意見だと思います。これはたぶん協働推進の施策を考えていく、進捗を管理していくという中では○とか△とかでは表現できない、少し暖かさを持った部分をどういう風に可視化していくのかという問題かもしれませんね。

(委員)

これまでの取組みや東近江市の動きをわかりやすく説明頂き、ありがとうございます。委員なのに恥ずかしいのですが知らないような内容もありました。例えば、コミュニティビジネススタートアップ事業なんかも初めて知りました。このような面白い取組みが多くの人に知ってもらえたらと思います。空き家の情報がちょうど欲しいと思っていたところでした。

(委員長)

つながっていったり、見えてくるといいですよ。コミュニティビジネスはまさにそうですが、二つの側面があるのかなと思います。皆で応援しようということにつながって売れていくことも大事だし、応援されなくても売れていくという側面の両方が大事ですよ。だけど、皆のお金で応援されていて事業されているものが知られてないというのは広報が必要かもしれませんね。少なくとも、まちを歩いている皆が知ってなくてもいいかもしれませんが、まちづくりにコアで関わっているような人には知ってもらう必要がありますよね。お互いに応援し合って、つながっていくような情報の還流が大事ですよ。

(委員)

質問ですが市民の協働ということになるのですが、地域の中小企業さんとの関わりの取組みがあったら紹介頂きたいです。

(事務局)

私が個人的に関わっている協議会の話がわかりやすいかなと思うのですが、間伐材を何とか活用したい、紙を作りたいという話をしていたのですが、近くに製紙メーカーはないよねと諦めていたところに、製紙メーカーさんや卸売りの方とつながりができて紙ができました。そうすると紙を使って下さるところは市内にたくさんあって、名刺をその紙を使おうとか、市役所の紙もその紙を使っていたり、アイテムになって戻ってきたらグッと応援団が増えました。そのおかげで

間伐材の量も大きく増え、活用が増えてきました。直では中々難しいのですがアイテムを通じてつながっていくということは広がっています。

(委員長)

企業と市民活動団体との協働が進むような手掛かり、今の話もそうですが、ある意味で中小企業とかにとってもちょっと仕事が見つかる、かつ NPO とか福祉の立ち位置だと自前で抱え込むことはなかなか難しいけど、一緒にしてもらうことで販路が広がったり、生産量が増えたりとか、もう少し展開ができるかという時に、企業が持っている力を活かしてある意味ビジネスとして借りるといふか、ビジネスパートナーとして最初うまくいくまでは一緒に歩いてよとか開発してよといったことを含めた企業とのパートナーシップというものが生み出されていくといいかもしれません。中小企業も持っている力をソーシャルな領域に接続さしていけるといった、それは中小企業さんにとっても無理のない寄付だとか貢献しないといけないとかではなくて、持っている力を活かしていけるような提案とかパートナーシップが組めるかというところまでいくと、そういうコミュニティビジネスとか NPO とか地域づくりの中で、もう少しこうだといいいよなというつぶやきを形に変えていくのかを検討してもいいかもしれませんね。諦めているのですね。そういうパートナーシップが想定されていないので、こういうものだと終わってしまう。特に福祉の分野だと商品に付加価値をつけて賃金アップしていこうという発想がないところは、そういうこともやろうともしていない。逆に言えば、もっとこういうふうに変えたいよなというものを考えていくようなチームみたいなものがあると企業との連携が一方通行型の連携ではなくなっていくかもしれないですね。本気で考えた方がいいかもしれないですね。

(事務局)

企業とのつながりの話、少し思い出してきたのですが、着火材を作っているチームの話ですが、ろうそくを使われるので、不要なろうそくを集めていたのですが個人から集めては全然ろうそくが足りないので、ろうそく屋さんには話をしたら今までお金を払って廃棄処分していたものなのでどうぞという話になったり、農協の葬祭センターさんとかろうそくを扱っておられるところに手当たり次第あたられました。蒲生地区のまちづくり協議会さんと農協さんと組んでおられたりもしています。事業は農協でやってもらう。でも、どういうまちにしたいかとか、そこに農業をどう位置付けたいかはまちの皆で考える。だから、農協さんこういうこと一緒にしましょうねというふうに持ちかけておられて、農協さんもそれをビジネスとしていこうとされておられます。

(委員)

先程空き家の話がありましたが、青少年育成市民会議で空き家調査をしました。空き家が子供たちがたむろする場所になるからということで調査が行われた。難しい法律もあるが、行政と事業者と地域が一体となって空き家をどうするのか、壊すのか活用するのかを考えないといけない。

(委員長)

あるものを活かすというのは大事ですね。それをどうつなげていくか重要ですね。

(委員)

空き家の話ですが、潰すとなると廃材やリサイクルできるものがありますよね。

(委員)

廃材はいくらでも使うことができると思います。レトロなものも利用価値が高いですね。それも含めてですが、先ほど中小企業のパートナーシップの話がありましたが、まちづくりやボラ

ンティアの活動はお金がかからないという風潮があって、お金のことを考えない。しかし、活動には経費もかかるし、善意だけではまわれない。日当とは言わないが、せめて必要経費くらいはだせないといけない。企業さんとの連携は広がりも大きいですし、資金面でも利益を感じることでできる活動をしていかないといけない。せっかくいいことをしていても継続していくのは難しいので、そのためのシステムを考えていかないといけない。ネットワークやすそ野を広げる活動が重要である。人材バンクも必要だと感じる。

(委員長)

使えるネットワークをいかに作るかは大事ですね。色んなネットワークが現状あって、つなぎ手となる人がいかにつなげていくとかか紹介していくか、オープンソースとしての人材ネットワークみたいなものをどう作っていくのかも大事ですね。

(委員)

五個荘の金堂地区でも空き家調査をされたが、データがオープンにはなっていない。これをどう利用するのかはわからないが、もう一段進むためにはオープンにすることが課題なのかなと思う。また、金堂地区は人は減っているし、若い人も出て行っている。外からの観光客に対してサービスはするが商売っ気がない。もっとビジネスという観点で何とかしていかないといけないと思います。

(委員長)

非常に大事な論点だと思います。そういう意味ではコミュニティビジネスとよく言いますが、コミュニティの中にもって課題を解決しながら、コミュニティの中にもってビジネスをしてしまうモデルが多くて、どこに売るとかどこに展開するのかといった出口の部分の実はマーケットに近い都市部みたいなところとの接続も大事だと思います。そういう生業型の産業や仕事を地域の中に作っていくことも大事ですね。今日の話の軸でいくとコミュニティビジネスみたいなものを協働の重点ポイントとし、企業とのパートナーシップを軸に行動化さしていく、本物にしていくことで地域の未来を描けるという側面があるとなれば行動化モデルを皆で練りだしていくような取組みもしていけたらいいかもしれません。

(委員)

検証という意味では、まちづくり協議会と自治会連合会の関係が地区によって温度差がある。新しい事業が展開されていない地区もある。現実のまちづくり協議会の課題について議論することも協働のまちづくりには必要だと感じます。

(委員長)

市民間のパートナーシップというか、そういう地域の足元の課題からやれることはないとか、様々な立場の人が感じている閉塞感や課題を丁寧に掘り下げていくような仕組みも必要かもしれません。

(委員)

取組みを聞いて、東近江市では協働に関する取組みが大きく進んでいるなという印象を受けました。今、現在の課題の話もありましたが、中間支援組織で働いている立場から見えてきたことというか、行政と市民の協働の取り組みの中で相談を受けて感じたことがあります。事例が3つ程あるのですが、1つ目は、団体さんの事務員の方は行政から下請扱いを受けていると感じている。上からの対応のように感じている。具体的には「何故できないのですか」「あれはできませんか」「これはできませんか」みたいな話がある。一方、行政の方は「全然仕事してくれへ

ん、委託しているのに」「もうちょっとやって欲しいな」というような思いでした。中間支援ということで解決をコーディネートできると良かったのですが、団体さんの理事長さんが行政と話をして一定の解決をしたという収まりかたをしました。

2つ目は、団体さん側は一応頑張ってますと言うがニーズに対応できていないパターン。「頑張ってるんやし、いいやろ」「しょうがないでしょ」というような感じ。行政側は「全然動いてない」「何回言っても、アドバイスしても動かない」というような形でした。危機感を煽っても、アイデアを出しても動かない。良い関係では無かったので、第三者を紹介させてもらって少し関係が良くなったということがありました。

3つ目は、これも行政から委託を受けている団体の話で、今回は団体さんの方がやる気十分、どんどん事業をしていこうとされている。しかし、事業の集客に苦戦をされている。そういった時に、行政側から協力が全然得られないということを不満に持っておられました。行政側は、良い意味で口を出さない、手を出さないといった静観をされておられるような形でした。

といった3つの事例がありました。関わっていく中で、同じような課題なのかなと思いました。お互いの役割分担とか関係性が共有できていなかったのではないかと、また、事業目的自体も共有されてなかったのではないかと感じました。

(委員長)

貴重な話だと思います。聞いてて「いいな」と思ったのですが、そういった話が中間支援組織の職員さんのところに入ってくるところが大事なところで、他のまちだとお互いの不信感につながってお互いに文句を言うだけなんですよね。だから、ある意味で中間支援的な機能が果たしているということで、そういった声が双方から入ってくるのは非常に大事なことです。あるまじな場合は、こういったことを計画とかに書いて、第三者機関を作ろうといったことをわざわざやらないとできないわけですね。現在、東近江市役所の中に事務所がある利点かもしれませんが、今のような話が入ってきて、お互いの解決の道筋をつけてあげることができるとか、他を紹介してあげられるとか、当然市民側を鍛えなければいけない場面や行政側を鍛えなければいけない場面とがあると思うのですが、それが見える環境ができてきているというのが私はすごいことと思います。こうしてあげると上手くといった支援ができたりすると非常に進みますね。双方が戸惑っていることや、ちょっとしたボタンの掛け違い、最後の話にあったような目的が共有できていないといった何のためにしているのかお互いに共有できていないと、委託だからといったように線を引いてしまいますよね。聞いていて、どこにでもあるような話だとは思いますが、救いはそういった情報が入ってきているということで、情報が入ってくる場であり続けるためにはどうしたらいいのかというのはある意味で課題かもしれませんね。非常に大事な話だと思いました。

(委員)

自治会に加入しましょうのチラシに感動したのですが、自分達の地域を良くしていくためにはそこに住む人が参画していきましょうといったこと等がちゃんと文章になっているところが凄いなと感じました。一方である地域の人には伝わっていないみたいな話もあったかなと思ったのですが、市の広報とかでどのような載り方をしているのかなと気になりました。市の広報が一番皆さんが見るものなのかなと思うのですが、教えて頂けたらと思います。そして、今日教えて頂いた協働の取り組みは広報で紹介とかしていますか？

もう一つ、庁内のプロジェクト会議について、新しく取組まなきゃいけない課題って部局横断をしないとイケないようなことばかりだと思うのですが、目的が違うかもしれませんが市民の人

が入ってきたり、当事者の人が入ってきたりするようなことも面白いとか、いいなと思ったのですが、可能性はあるでしょうか。

(事務局)

自治会に加入しようのチラシは、まちづくり協働課と NPO 法人まちづくりネット東近江で協力して作りました。表では「自治会に加入しましょう」、裏には「まちづくり協議会に参加下さい」「まちづくりネット東近江はお悩み解決のお手伝いをします」という内容です。自治会加入について、広報ではあまり載せていないのが現状です。協働の取り組みも広報で紹介できたいのですが、広報の誌面も色んな課の情報でいっぱいになかなか難しいかもしれません。しかし、今年度はケーブルテレビの番組の中で毎月のようにまちづくり協働課で情報を流させてもらいました。

(委員長)

ケーブルテレビの内容は、YouTube やインターネットなどで、後で流せないのですか？

(事務局)

著作権の関係もあるので、現在は難しいのですが、市民投稿番組「まちなわ」の方の評判が結構良くて、ケーブルテレビの中でもそういった話出ていると聞いたことがあります。

(委員長)

私の大学の学生もラジオをやっているのですが、リアルタイムで聞いてくれる人は実はあまりいなくて、ラジオ離れもありますし、しかし、スタジオで番組を作ってデータとしていつでも聞けるようにしておく、誰でも聞くことができたり、SNS でこんなことしましたと後から宣伝もでき、後から聞いてくれる人もいるという 2 次利用が可能になります。せっかく作った番組なので、後から見ることができたり、聞けるといいですね。やっていることを積み上げていきますよね。

(委員)

広報で協働コーナーみたいなスペースがもらえると、地道な周知ができていいですね。

(事務局)

庁内のプロジェクト会議の話ですが、就労支援プロジェクトの方は実は外からの視察というのを会議の場で受け入れて、せっかくの外から来られたので社協さんも参加しませんかとか、若者の就労サポートをやっているところも参加しませんかといった感じで、広げて 2、30 人で会議としてしたこともありました。里山活用のプロジェクトの方は、なかなかそこまで議論を持っていけなかったのですが、次年度以降きちんと組織を作って具体的な施策を検討してけたらという結論になり、色んな方面に提案をだしているところです。

(委員長)

そうやって部署を超えた連携軸から、課題や仕事が再編されていくということが、中の話は大変なんでしょうが、そういうことができる環境というのはある意味で東近江市役所が持っている力だと思います。そういう展開は素晴らしいと思います。

私も一つだけ、研修で協働研修の話がありましたが、わざわざ組まなくてもいいなと思っていて、例えば先程の市役所の職員の協働人材を育成する人間力の研修、この中で受講したい人いますか？そうですね、結構いますよね。要はそういうことなんです。最近思っていることは、こういう職員研修を職員だけで閉じておく必要がないということです。例えば、協働推進ということで行くと、誰でも参加オッケーというカルチャーセンターみたいになっちゃいますが、ま

ちづくりに関わっている人が毎回10人だけでも初めはいいと思うのですが、行政職員だけが聞いた方がいい研修というのはそんなにないと思います。例えば、行政の仕組みを学ぶ研修だって、市民の人が知った方がいいわけだし、このようなスキル系の研修だってそうだし、たぶん秘密にしなければならない研修というのはほとんどないと思います。財務だったり、法務だったりも関心のなる人だったら、受講できた方がまちにとってはいいことですよね。行政の事情がわかっているといいですね。NPO やまちづくり協議会や自治会の人、いつ予算要求がされて、どのように決定されてみたいかは知っておいた方が、交渉や話はしやすいですね。そういう意味で考えると、協働の研修というのは行政でする必要はないと思います。協働を学ぶ研修は、NPO 法人まちづくりネット東近江さんでも開催してもらえと思うし、そういう講師の方はたくさんいます。次のフェーズで狙いたいのは職員研修をオープン化するようなことをやれると実質それが協働研修になるわけで、例えば人間力を身に着けたいなといった研修は受けたいなという人も多いわけで、せつかく税金である意味研修をやっているのだから閉じておく必要はないなと思います。それを開きやすい講座群でやりやすい人数で限定的でもいいので、そういうところからはじめていくと、共有できるし、そういう研修で出会った人もつながっていけるので、そういうことからやっていけると新しいスタイルになるのではないのかなと思いますし、風通しもよくなるし、緊張感も出るし、研修やる方からしても緊張感があっていいなと思います。要はそういうことで、先ほどからも出ていますが、実際にあるものを活かすということで、新しいことをしなくても東近江市の中にあるものを活かしていくことを考えると、あるものを活かして協働やまちづくりを活性化していく道筋でいっぱい考えられるのではないかなと思いました。

動きを確認しながら、たくさん皆さんにも話をしてもらいました。言い足りない方おられますか。

(委員)

まちづくりネット東近江の方にたくさん相談があるのは素晴らしいことだと思います。現状、それで足りているのか、足りていないのかはわかりませんが、将来的展望を考えると、先ほどの研修の話もそうですが、そういったコーディネートする人や役割の人を地域に配置していきけるようなことが、まちには必要だと思います。次の段階として必要だと思います。

(委員長)

その通りです。それは行政職員も担わないといけませんし、我々市民側にも担っていかないとはいけませんよね。

(委員)

東近江市で考えると自治会はすごく強いですし、一生懸命地域のことを考えておられています。自治会単位では小さいかもしれませんが、学区単位でもそういう役割の人が必要だと思います。中間的な支援として、必要だと思います。

(委員長)

皆さん、非常にすごいです。本日のことは事務局の方で整理をしてもらって、1つずつ丁寧に検討したり、アイデアをだしていけたらと思います。裾野を広げるのはある意味で永遠のテーマなところがありますが、少しでも広がりを持っていけたらと思います。本日の議論は発散していくことが目的だったのでこの辺りで終わりにしますが、次回以降もこういう時間を作れると思いますので、皆さんもますます検討しておいてもらえたらと思います。



**【事務連絡】**

※事務局より事務連絡

**【次回の開催日は、3月29日（日）19時30分から】**

※閉会